

Oitaイノベーターズコレジオ 研修効果測定 報告書

2022年3月25日（金）
碓 邦生（k.ikari@atdi.jp）

要旨

Oitaイノベーターズコレジオのプログラムを通して、受講生がどのような学びを得ることができるのか、どのような能力開発に寄与するのかを知るために、定量と定性で調査を行った。

定量調査では、受講前・プログラム半分経過後・プログラム終了1か月後の3時点でデータを収集した。

定性調査では、全10回中第3回終了後・第5回終了後・プログラム終了1か月後の3時点で30分程度のインタビューを行っている。

その結果、定量調査では「**変化への備え（認知面と感情面）**」「**主体的行動**」「**自己効力感**」「**イノベーターとしての自覚**」「**アイデアの独創性**」「**アイデアの社会課題解決度**」「**アイデアの総合評価**」でスコアの向上が見られた。詳しい統計分析の結果では、特に「**主体的行動**」「**アイデアの独創性**」「**アイデアの総合評価**」で著しい向上が確認できた。

このことから、本プログラムでは①「**自分が当事者となって、アイデアを出し、プロジェクトの推進役**」となる**主体的な行動**と、②**事業アイデアの独創性**が磨かれ、プログラムを受けていない他者に比べて多くの人に③「**このアイデアは良い事業になりそうだ**」と**評価される筋の良い発想力**が開発される。

また、定性調査では5つの段階を通して、「**イノベーターとしての自覚**」と「**多様性と不確実性の受容**」という2つの要素が醸成されることがわかった。これらの2つの要素は受講生のアイデンティティの形成に携わるものであり、乗り越えるべき課題に直面し、その課題を解決することで成長するという、発達心理学でいう発達課題と似た性格をもつ。

効果測定テストの結果

Oitaイノベーターズコレジオの研修効果測定

効果測定テストの結果	受講前		受講後		受講前と 受講後の差
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
変化への備え（認知）	13.37	2.15	13.94	2.30	0.57
変化への備え（感情）	16.63	1.68	16.78	1.84	0.15
主体的行動	36.98	5.86	39.42	4.88	2.44
自己効力感	35.91	6.70	38.08	6.01	2.17
イノベーターとしての自覚	38.22	5.66	39.83	5.82	1.61
アイデアテストの評価					
独創性	27.20	7.13	30.33	5.68	3.13
社会課題の解決	26.13	6.60	27.83	4.40	1.70
総合評価	42.22	9.15	46.14	9.65	3.92

スコアアップ!

スコアアップ!

スコアアップ!

スコアアップ!

スコアアップ!

スコアアップ!

スコアアップ!

スコアアップ!

効果測定で使用したテストの参考文献

- ・変化への備え：Bouckenoghe, D., Devos, G., & Van den Broeck, H. (2009). Organizational change questionnaire-climate of change, processes, and readiness: Development of a new instrument. *The Journal of psychology*, 143(6), 559-599.
- ・主体的行動：Bateman, T. S., & Crant, J. M. (1993). The proactive component of organizational behavior: A measure and correlates. *Journal of organizational behavior*, 14(2), 103-118.
- ・自己効力感：Parker, S. K. (1998). Enhancing role breadth self-efficacy: the roles of job enrichment and other organizational interventions. *Journal of applied psychology*, 83(6), 835.
- ・イノベーターとしての自覚：独自開発（因子分析により内的妥当性検証済み）
- ・アイデアテストの評価：Kaufman, J. C., Plucker, J. A., & Baer, J. (2008). *Essentials of creativity assessment*. John Wiley & Sons.

採点：変化への備え（認知）25点満点、変化への備え（感情）25点満点、主体的行動50点満点、自己効力感50点満点、イノベーターとしての自覚50点満点、独創性50点満点、社会課題の解決50点満点、総合評価100点満点

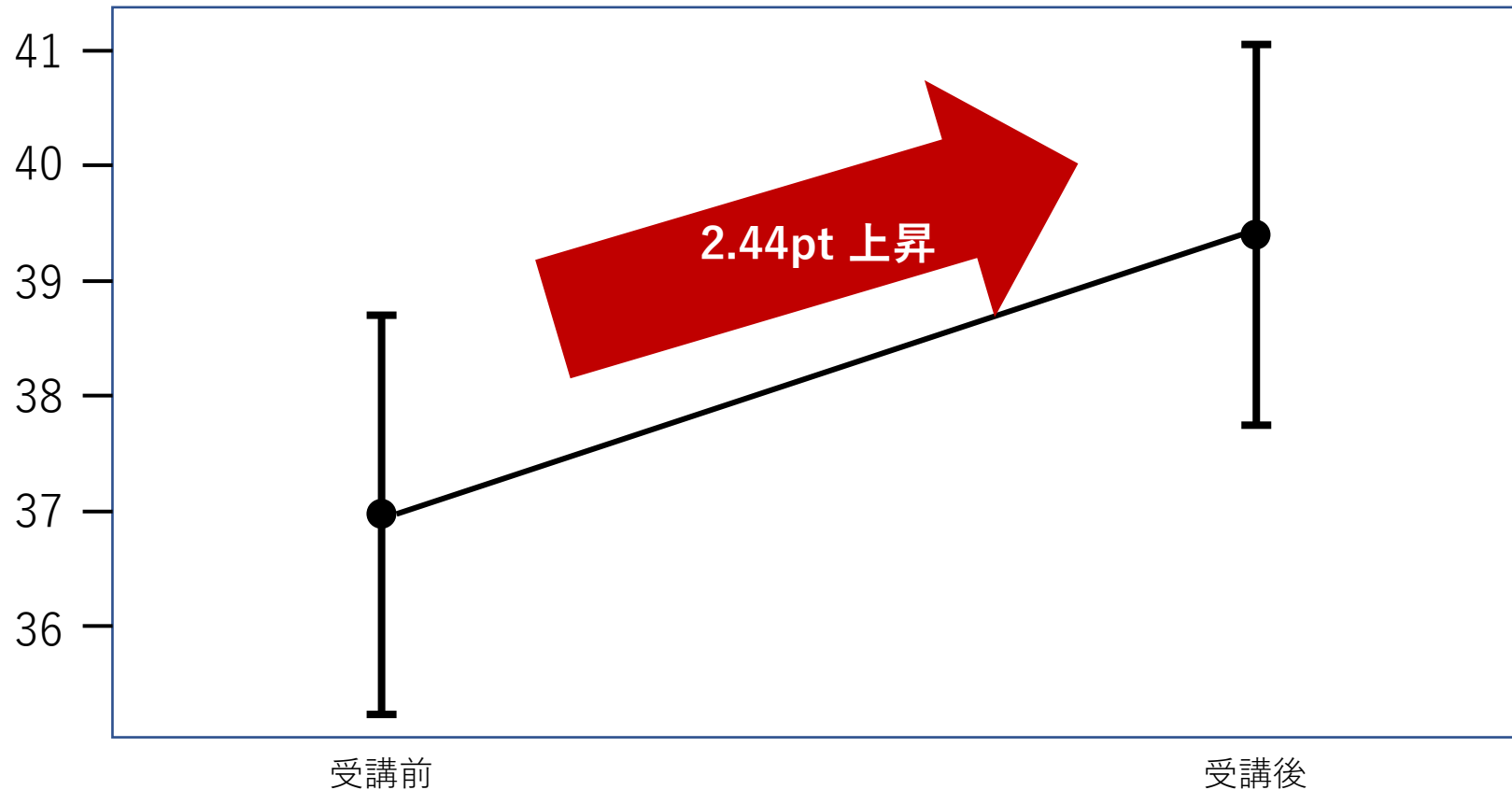
研修プログラムの実施によって、研修前後でスコアの上昇が認められた。

特に、コンピテンシー評価形式だけではなく、実際に出された地方活性化のアイデアにも著しい質の向上が見られた。

アイデアの評価は、回答者の匿名性を担保したうえで、10名の評価者（社会人5名、大学生5名）が採点した特典を合算する「合意測定方式」を採用している。

統計分析で著しい変化が確認できた3要素

その1 主体的行動



研修によって、最も大きなスコアの向上が認められたコンピテンシーは、「主体的行動」であった。

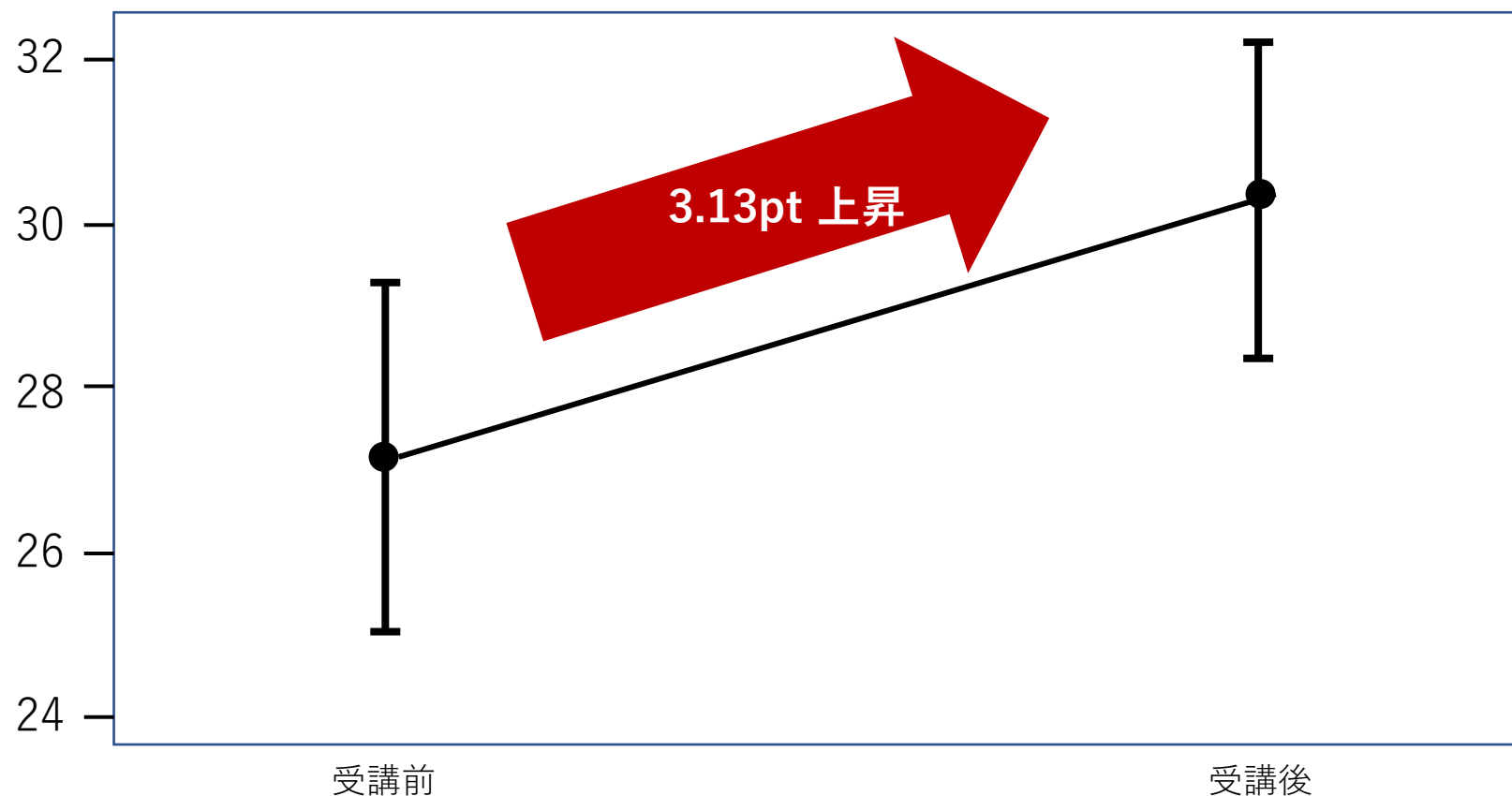
受講前・中・後の得点は、統計分析でも有意な差が確認されている。

このことから、研修によって、「自分が事業アイデアを出す当事者だ」という自覚が受講生に生まれていることがわかる。

*対応のある一元配列分散分析の結果（受講前・受講中・受講後）、有意差を確認した。（ $F(1,1,112) = 4.268, p < .05$ ）

*設問例：どんなに不利な状況でも、やると決めたことは必ず実現させる。

その2 アイデアの独創性



地方活性化のアイデアを出すペーパーテストでは、アイデアの独創性が著しく向上している。

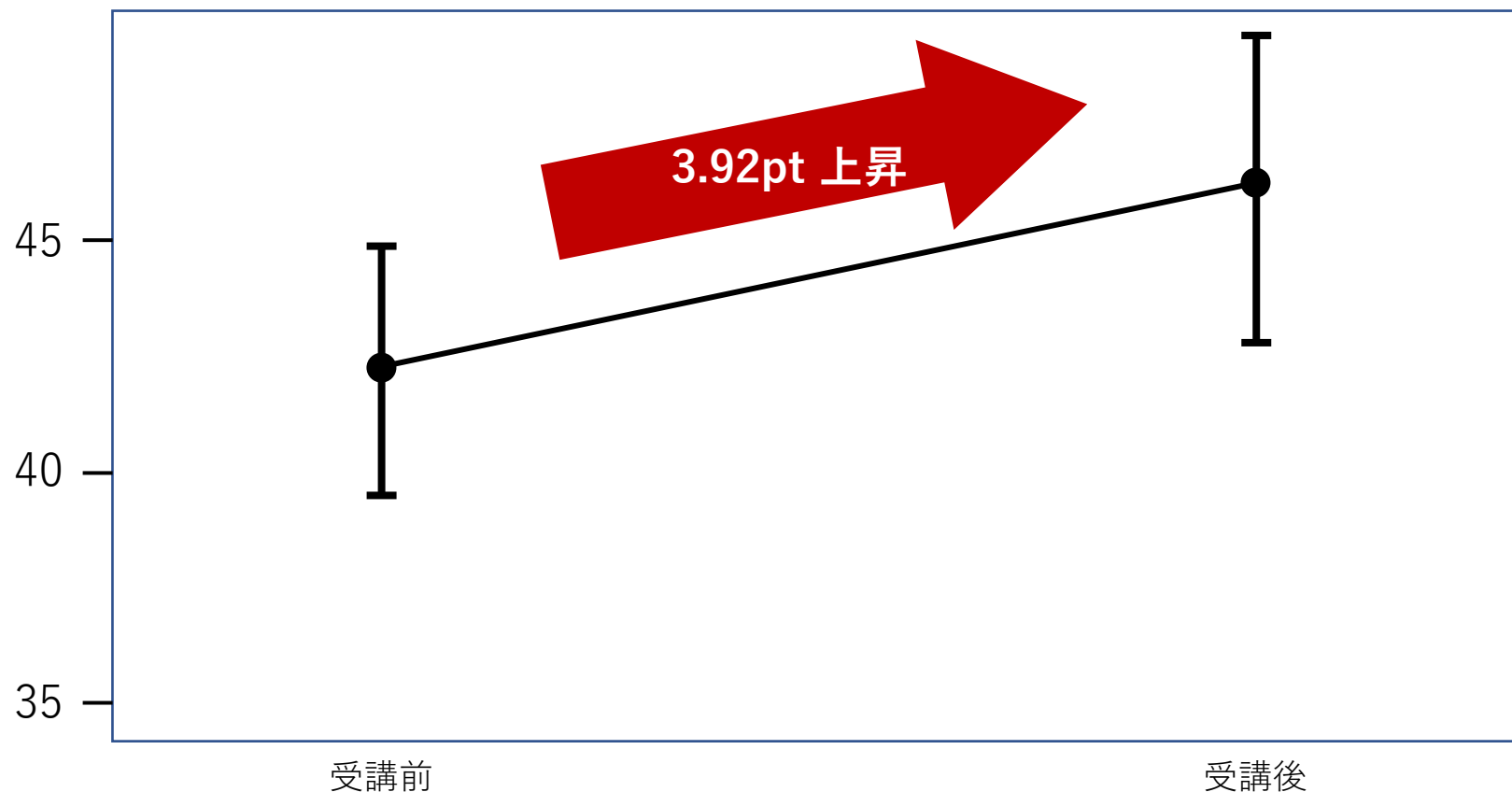
このことから、研修によって、「新奇な発想」「独創的なアイデアの創出」に関する能力が向上していることがわかる。

*対応のある一元配列分散分析の結果（受講前・受講中・受講後）、有意差を確認した。（ $F(1,1,112) = 4.344, p < .05$ ）

*自由記述の地方活性化アイデアを10名で個別にブラインド評価し、得点を合算した。

統計分析で著しい変化が確認できた3要素

その3 アイデアの総合評価



研修によって、アイデアの総合評価も著しく向上している。

総合評価は、「独創性」「実現可能性」「社会課題の解決」の3つのサブスコアを勘案して、10点満点で10名が採点している。(全100点)

このことから、多くの人が見て「良いアイデアだ」と認知されやすい発想力が身についていることがわかる。

*対応のある一元配列分散分析の結果 (受講前・受講中・受講後)、有意差を確認した。(F(1,1,112) = 2.818, p < .10)

定性調査からみえた学習曲線

